

# 自閉症のある子供に対する支援としての“構造化”

自閉症のある子供には、“活動などを分かりやすくするための構造化”が有効である。

構造化することで、概念化や情報を整理・統合することに困難さがある自閉症のある子供が、課題などのやるべきことや課題をどのように遂行すべきかを、理解しやすくなる。

また、構造化によって、予測性のある活動の手順を示すことにより、見通しがもてないことで生じる不安を軽減することになる。そのため、自閉症のある子供がストレスを感じにくくなり、学ぶべき事柄に集中することができる。

構造化には決まった形はなく、子供一人一人に合わせて分かりやすくすることが求められる。

## 物理的な構造化

・ 棚等の配置により、物理的に分かりやすい境界を設ける。

## 時間の構造化

・ スケジュールを視覚的に示すことで、どのような活動が、どのような順番で続いていくのかをあらかじめ理解できるようにする。

## 活動の構造化

・ 活動の流れを分かりやすくすることで、学習に集中しやすくする。

## 一連の流れの構造化

・ 手順のある事柄について、決まった手順で行えるようにする。

## 課題の構造化

・ 学習で取り組む一つ一つの課題について、どのような手順で、どのように行い、どうなると終わるのかを分かりやすくする。

